



学 会 通 信

第 93 号

2020 年 1 月 28 日発行

目次

2019 年度 第 26 回日本教育メディア学会年次大会お礼	2
2019 年度第 2 回研究会のご報告	4
ICoME2020 のご案内	7
理事会（定例）議事録	8
定例総会議事録	12
論文投稿のご案内	12
学会費納入のお願い，入会者・退会者	14

2019年度 第26回日本教育メディア学会年次大会お礼

大会実行委員長 林向達（徳島文理大学）

去る2019年11月2日（土）3日（日）に徳島文理大学徳島キャンパスで日本教育メディア学会第26回年次大会を開催させていただきました。開催にあたりご協力いただいた皆様を始め、遠路はるばる徳島までご参加いただきました参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和最初の年次大会を担当させていただくにあたり、大会企画のテーマは現在・過去・未来を見通すものとなるよう準備をさせていただきました。

大会はオープニングトーク「教育メディア研究のこれから」と題し、教育メディアの研究の魅力や課題について学会長と若手研究者お2人との鼎談で始まりました。初日午前の企画にも関わらず、たくさんの方々が一緒に学会のスタートを切ってくださいました。

午後はシンポジウム「教育メディアにとっての平成時代」にて、3人の実践・研究者が平成時代を振り返ってくださいました。平成30年間で激変したメディア環境とともに実践と研究がどう展開したのか、聴衆の皆さんも自身の経験を重ねながら聞き入っておられました。

大会最後はシンポジウム「新たなメディアがつくる令和時代の学校・地域・文化」として、登場し続ける新たな教育メディアをそれぞれの現場がどう引き受けていくのかを具体的な取り組みの紹介を経てフロアとともに考えました。そこには解決すべき課題も確認され、教育メディア研究が今後ますます必要とされることを再確認する機会ともなりました。



こうした大会企画を交差点としながら、会期中は4つの課題研究を始め、一般研究発表の会場でも活発な議論を展開されていたと拝見しておりました。

一方で、大会実行委員長として、今回の年次大会開催の準備と運営に関して、至らぬ点が多々あったことをあらためてお詫びさせていただきます。

令和最初の年次大会を引き受けさせていただくにあたって、いくつかチャレンジもしたのですが、なかなかうまくはいきませんでした。そこで、第26回年次大会最後の余興ということで、第26回年次大会実行委員会のチャレンジと結果のご報告をさせていただきます。

1. 令和初開催 PR ロングキャンペーンの試み

令和初の年次大会が徳島で開催されることを継続PRするため、そのツールとして「インターネットラジオ配信」の採用を決断。教育メディア研究をメディア実践活動でPRしようと考えた。

〈結果〉インターネットラジオ配信システムの構築と運営には成功しました。PR配信は数回で頓挫。年次大会準備をしながらの番組制作は難しかったのが敗因。

2. 令和だ！資料を集めて歴史を振り返ろう！

教育メディア分野の過去資料を大会会場に展示し、シンポジウムと連動させながら参加者とともに歴史を振り返る企画を発動。かつての日本放送教育協会の資料をご提供いただくなど外部の協力も仰いだ。

〈結果〉残念ながら企画実現とならず。年次大会準備をしながらの展示制作は難しかったのが敗因。今後の研究活動の中でリベンジを誓う。

3. 発表情報管理システムの開発と運用

個々の学会発表の内容や当日の進行情報をWeb上で確認できるシステムを開発して運用することを画策。メディアやITと親和性の高い学会なのだから、大会プログラムもWebアプリで提供するくらいになってもよいと考えた。

〈結果〉発表内容とプログラム情報を蓄積し発信する基本的なシステムの開発には成功。一部利用されてフィードバックもいただいたが、今後の計画は未定。

4. 事前申込者へ徳島大会情報メールの送信

海外学会のカンファレンス情報メールを見習って、事前申込者に対し、徳島での年次大会開催情報をHTMLメールで2回発信した。必要な事務的情報はもちろんのこと、大会の見どころ、徳島へのアクセスや街情報を盛り込んだ。

〈結果〉会期中、お一人から情報メールについて感想をいただいた。とりあえず届いていたようである。視聴率は課題か。

以上、日本教育メディア学会を徳島にお迎えするにあたり裏側で展開していた試みと顛末でした。こうしたメディアに関わる無謀な試みを暖かい目で見守っていただきながら、なんとか徳島年次大会を終えることができましたこと、あらためて深く御礼申し上げます。

さて、次回の年次大会は岩手県立大学にて開催されます。うまくバトンを引き渡して、今後ますます日本教育メディア学会年次大会が、会員と領域関係者との良き議論の場になることを祈念したいと思います。

2019 年度第 2 回研究会のご報告

テーマ「情報活用能力（プログラミング、情報モラル等を含む）指導における
教育メディアの活用・教材開発／一般」

研究委員会 国内研究会担当 委員長 堀田博史
本企画担当 豊田充崇

（学会通信の配信されます日時が、すでに研究会開催後である可能性もございます。以下の研究会プログラムは、ML 及び Web サイト <http://jaems.jp/meeting/> でお知らせしております。あらかじめご了承ください。）

■日 時 2020 年 1 月 26 日（日）10:00～16:00

■場 所 和歌山大学教育学部附属小学校（オレンジルーム）

■主 催 日本教育メディア学会

■参加費 無料

■対 象 本研究会は学会員，非学会員問わず参加することができます。当日会場にお越しください。

■申し込み 当日参加も可能ですが，事前に参加申し込みいただくと受付をスムーズにすることができますので，以下のサイトの「申し込みアドレス」から登録いただくと幸いです。

<http://jaems.jp/meeting/>

今回の研究会では、「情報活用能力（プログラミング、情報モラル等を含む）指導における教育メディアの活用・教材開発」に関するテーマで募集しましたところ，20 件の発表をしていただくことになりました。

また前日の 25 日（土）には、「和歌山大学教育学部附属小学校第 12 回 ICT 活用授業研究会」も開催されます。詳細は <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp/kenkyukai/> で掲載しています。

発表内容は，以下のとおりです。A 会場と B 会場に分かれて行います。

多数の参加をお待ちしています。

*** A 会場 ***

10:00～10:05 開催挨拶

午前の部(10:10～12:10) (1件につき 発表 20分・質疑 8分・入れ替わり 2分)

A 会場

A-1) 小学校社会科における児童が主体的・対話的で深い学びを実現させる学習過程の検討—情報活用能力の育成を基盤に据えた授業実践を通して—

木村明憲 (京都教育大学附属桃山小学校), 黒上晴夫 (関西大学)

A-2) 情報活用能力育成を目指した小学校高学年向け新聞活用指導事例の開発

細川都司恵 (金沢星稷大学)

A-3) 中学校国語科における情報活用能力育成—生徒らは将来必要とする能力をどのように意識しているのか—

植田恭子 (都留文科大学)

A-4) 探究学習の基盤となる情報活用スキルの概念構成に関する一考察

稲垣 忠 (東北学院大学), 後藤康志 (新潟大学), 豊田充崇 (和歌山大学), 松本章代 (東北学院大学), 泰山 裕 (鳴門教育大学)

(昼食休憩 50分間)

午後の部(13:00～16:00) (1件につき 発表 20分・質疑 8分・入れ替わり 2分)

A 会場

A-5) 一人一台端末環境におけるアンケート調査の授業の開発

渡邊光輝 (お茶の水女子大学附属中学校), 山口眞希 (放送大学大学院), 中川一史 (放送大学)

A-6) 学校放送番組の活用指導案から読み取れる教育的効果

水野宗市 (宮崎市立宮崎東小学校), 堀田博史 (園田学園女子大学), 貫井真史 (NHK制作局第一制作ユニット)

A-7) 学校放送番組を初めて活用する若手教師の授業に関する考察

福田 晃 (金沢大学附属小学校), 村井 万寿夫 (北陸学院大学), 中川一史 (放送大学)

A-8) プログラミングによる問題解決を通して AI への理解を深めるための小学校総合的な学習の時間の授業実践

佐藤和紀 (常葉大学教育学部), 三井一希 (山梨県北杜市立泉小学校・熊本大学大学院社会文化科学教育部), 板垣翔大 (大阪教育大学大学院連合教職実践研究科), 礪川祐地 (上越教育大学大学院学校教育研究科), 中川哲・堀田龍也 (東北大学大学院情報科学研究科)

A-9) プログラミング教育を理解するための校内研修デザインとその評価

末廣てるの（兵庫教育大学研究生），永田 智子（兵庫教育大学）

A-10) シンキングツールを活用した授業デザインの分析～シンキングツールの組み合わせに着目して～

谷口生歩・黒上晴夫（関西大学）

*** B 会場 ***

10:00～10:05 開催挨拶

午前の部(10:10～12:10) (1件につき 発表 20分・質疑 8分・入れ替わり 2分)

B 会場

B-1) 小学校の普通教室にプリンタ複合機を常設した際の教員の歩数と印刷時間の変化の分析

浅井公太・大村 徹（静岡市立長田西小学校），山内真紀（エプソン販売株式会社），手塚和佳奈・佐藤和紀（常葉大学教育学部），高橋 純（東京学芸大学教育学部）

B-2) 小学校の普通教室にプリンタ複合機を常設した際の教師のプリンタ複合機使用に関するモチベーションと依存度の分析

手塚和佳奈・佐藤和紀（常葉大学教育学部），山内真紀（エプソン販売株式会社），高橋 純（東京学芸大学教育学部）

B-3) 360度ドーム映像とHMD映像およびタブレットまたはPCによる視聴覚教材を活用した社会科学習の提案：紀州太田城 水攻め遺跡を例に

大井田かおり（和歌山大学大学院観光学研究科博士後期課程単位取得満期退学），中辻晴香（和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス），尾久土正己（和歌山大学観光学部）

B-4) 著作権法の制度は，著作者を保護しているのか—新聞の著作権規定から考える—
世良 清（三重県立津商業高等学校）

（昼食休憩 50分間）

午後の部(13:00～16:30) (1件につき 発表 20分・質疑 8分・入れ替わり 2分)

B 会場

B-5) 理系留学生のための日本語教育

加藤由香里（首都大学東京国際センター）

B-6) 大学生の映像制作初学者のための教材開発と授業実践—造形ワークショップ体験動画とスマートフォンに保存された画像を用いたセルフポートレート動画制作—

宮下十有（相山女学園大学文化情報学部），堀 祥子（名古屋女子大学文学部）

B-7) デジタルの特徴を意識化する工作ワークショップの開発と評価

藤田美紀, 亀井美穂子, 園部加奈, 杉浦紗英, 畑中梨花, 宮下十有, 鳥居隆司 (椋山女学園大学文化情報学部)

B-8) モンスターペアレントの心理を推測するゲーム教材の開発と実験

竹内俊彦 (駿河台大学メディア情報学部・CRET)

B-9) 児童が思考ツールをもとに文書資料を繰り返して作成したことによる効果の考察

池田直仁 (関西大学大学院)

B-10) World Peace Song Project 持続可能な平和教育に向けて

宮田義郎 (中京大学)

ICoME 2020のご案内

ICoME (International Conference for Media in Education) 2020 は、今回で第 18 回目の実施となります。日本教育メディア学会 (JAEMS), 韓国教育情報メディア学会 (KAEIM), 中国教育工学会 (CAET), アメリカ TCC (Technology, Colleges and Community) オンラインカンファレンスとの連携によって、2020 年 8 月 17 日から 19 日に甲南大学岡本キャンパスにて開催されます。

ICoME は、国内外からの多くの教育研究者や実践者が集まり、教育メディアや教育技術に関する貴重な研究や実践の発表、共有の場となります。本会が、各国の研究者間で行われる互恵的な意見交換の場となりますよう、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

なお、ICoME に関する情報は随時 ICoME2020 ウェブサイト、JAEMS ウェブサイトおよびメーリングリストにて発信していきますので、それらも併せてご確認くださいませようお願いいたします。

■日時：2020 年 8 月 17 日 (月) - 19 日 (水)

■場所：甲南大学岡本キャンパス (兵庫県神戸市)

■テーマ：Diversity education in ICT advanced society

※教育メディアに関するその他の発表も広く募集しています。

■ウェブサイト：<http://icome.education/>

※学会に関する情報は随時ウェブサイトにてお知らせいたします。

■プログラム

17 日 (月) : Opening Ceremony / Keynote speech / Concurrent Session

18 日 (火) : Keynote speech / Concurrent Session / Round Table (Parallel Forum)

19日(水) : Keynote speech / President Talk / Closing Ceremony / Field Tour

※プログラムは直前まで変更の可能性があります。

■学会までのスケジュール (プロポーザル・参加申込期限) 【厳守】

Proposal submission(Concurrent Session) March 30th, 2020

Proposal submission(Roundtable Session) April 30th, 2020

Proceedings file submission(Both Concurrent and Round Table Session) June 30th, 2020

Registration for participation (Early Bird) June 30th, 2020

Registration for participation July 30th, 2020

■参加費

Faculty / Primary or Secondary Teacher / Company Employee / Other 15,000JPY

Graduate Student(Doctoral and Master Course) 5,000JPY

Undergraduate Student 3,000JPY

※参加費の支払いは、日本円での現地での現金払いとなります。

■宿泊場所

学会での予約仲介は行いませんので、各自で宿泊場所をご準備ください。

2020年度はオリンピックの開催にともない、宿泊場所の混雑が予想されます、お早めに各自予約をお願いいたします。

理事会 (定例) 議事録

第9期 第3回理事会 (定例) 議事録

[日 時] 2019年11月1日(金) 16:00-17:30

[場 所] 徳島市シビックセンター 活動室2

[出席予定者] 会長, 理事15名, 監事1名, 委任状(議長に一任)10名

会長 小柳和喜雄

理事 中橋雄, 鈴木克明, 岩崎千晶, 宇治橋祐之, 黒上晴夫, 堀田龍也, 今野貴之,
長谷川透, 山本良太, 寺嶋浩介, 鄭仁星, 佐藤慎一, 久保田賢一, 泰山裕, 林向達

欠席 永田智子, 村上正行, 堀田博史, 渡辺雄貴, 岸磨貴子, 後藤康志, 稲垣忠,
中川一史, 影戸誠, 浅井和行

監事 浦野弘, 佐々木輝美(欠席)

事務局 池尻良平

<審議事項>

(1) 理事の交代について

長谷川理事が本年度の全国大会終了後に退任することについて承認された。残りの期間の後任については、関戸会員にすることが承認された。

(2) 入会者・退会者・除籍者について（事務局）

泰山副事務局長から報告があり、入会者・退会者・除籍者について承認された。

(3) 編集委員会（国際担当）

佐藤委員長から、学会サイトで国際誌の論文の査読と公開をすること、それに伴うサーバーに関する審議事項が報告され、現在の JAEMS Web サイトで査読と論文公開の運用を開始することについて承認された。

また、英文誌の No.2 を Open Call で実施して良いかに関する審議事項も報告され、提案の方針について承認された。

(4) 研究委員会（国際担当）

山本副委員長から、ICoME2020 の準備のための予算の金額に関する審議事項が報告され、過去の 105 万程度に合わせることがベースになるが、過去に赤字が出たこともあったため、金額については過去の支出を慎重に調べるべきと提案された。

ICoME2020 のウェブを JAEMS のサーバー内に立ち上げて良いかに関する審議事項が報告され、黒上理事から、Suite 10 のサーバーの問い合わせに相談しつつ、仮想的に作る事が提案された。また、佐藤理事から、韓国の開催時に取得したドメインで運用すべきかについても議論が行われた。2020 年度については JAEMS のウェブ内に仮想的に作る方針で進めることになった。

ICoME2020 実施の MOU に関する審議事項が報告され、今後の課題として中国と韓国の体制的に国際会議のノウハウの引き継ぎが難しい点が共有され、日本側のノウハウをもとに発信していくことの重要性が指摘された。また、佐藤会員から、フィリピンやインドネシアに対する情報発信についても留意すべきことが指摘された。また、黒上会員から、icome ドメインのサイトを作って会員登録のシステムを作り、そこから連絡をする案も提案された。久保田理事から、過去の参加者のメールアドレスをもとにメールリストを作り、随時更新する案も提案された。

ICoME2020 のテーマとして” Diversity Education in ICT advanced society” で良いかに関する審議事項が報告され、テーマについては承認された。名称については、” Advanced Education in Diversity Society” や、” Diversity, Inclusion, Technology and Education” などの参考意見も出された。最終的な名称は後日メーリングリスト上での確認となった。

キーノートはテーマ決定後に検討することに決まった。

参加費について、一般 10,000 円、学生 3,000 円で良いかに関する審議事項が報告され、もう少し金額を上げて良いのではないかと参考意見が出た。最終的な金額は、過去の支出を確認の上、後日メーリングリスト上での確認となった。

(5) その他

小柳会長から、毎年 1 万円かかるが教育学関連学連絡協議会に加盟して良いかに関する審議事項が報告され、承認された。

<報告事項>

(1) 編集委員会 (国際担当)

佐藤委員長から、IJEMT の No.1 の投稿数と採択数の報告と、次年度の準備の進捗が報告された。

(2) 編集委員会 (国内担当)

黒上委員長から、今年度の『教育メディア研究』の No.1, および特集号の投稿数と採択数が報告された。

(3) 研究委員会 (国際担当)

山本副委員長から、ICoME2019 の実施報告がされた。

(4) 研究委員会 (国内担当)

久保田副委員長から、1月に研究会を開く予定で順調に進んでいる旨が報告された。

(5) 企画委員会

寺嶋委員長から、「教師のセルフスタディ」Vol.1 の進捗について報告された。発行者の名称が「日本教育メディア学会企画委員会」であることについて、中橋副会長からなぜ学会名を用いないかの質問が出た。また、今野理事から、他の学会では複数の学会誌を出す際、発行者は学会名にして奥付で委員会を記載する案があることも参考意見として出された。また、堀田理事から、巻号は通し番号にしておく方が良いという指摘もされた。発行者の名称については「日本教育メディア学会企画委員会」、責任の所在だけは明示すべきだということで共通認識が取れた。

同時に、オンラインで研究会の発表原稿を出すことについては、査読がないため、慎重に検討すべきという意見が出た。

セルフスタディの投稿については、今大会の発表者に限るという但し書きをした上でメーリングリストで告知することになった。

(6) 広報委員会

岩崎副委員長から、Web サイトの SSL 化、研究会用のワードプレスのアップロード容量の増加について報告があった。

また、長谷川理事の交代に伴い、該当の Web サイトの更新について確認があった。

(7) 年次大会委員会

堀田副委員長より、今年度の年次大会について報告があった。

また、次年度について岩手県立大学での開催について報告された。また、2021 年度については関東地方において開催を検討している旨、報告された。

(8) 日本教育メディア学会論文賞選考委員会

久保田委員から、論文賞の選考結果が報告された。

(9) 次回理事会開催について

小柳会長から、例年通り 4 月の第 3 週くらいを予定しているが、詳細は追って連絡する旨が報告された。

以上

定例総会 議事録

[日 時] 2019年11月2日(土) 12:30-13:20(年次大会第1日目)

[場 所] 徳島文理大学視聴覚室 兼 コンピュータ室(2)9603

[内 容]

(1) 議案

議事に先立ち、永田事務局長から、有効な委任状(議決権を議長に委任)が46通電子総会システムより提出され、出席者が67名のため、学会会則第44条に従って2019年度定例総会が成立していることが報告された。また、会場校を代表して林大会実行委員長より挨拶があった。

第1号議案：2018年度事業報告及び収支決算承認の件

永田事務局長より、第1号議案として機関誌発行、年次大会の開催、学术交流等、2018年度事業報告及び収支決算(案)が報告された。佐々木監事より、通帳、領収書、帳簿を確認した結果、正確であったことが報告され、審議の結果、2018年度事業報告及び収支決算(案)について、異議なく承認された。

第2号議案：2019年度事業計画及び収支予算承認の件

永田事務局長より、第2号議案として、機関誌発行、年次大会の開催、学术交流等、2019年度収支予算(案)が報告された。審議の結果、2019年度事業報告及び収支決算(案)について、異議なく承認された。

(2) 報告事項

①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査報告と結果報告

中川日本教育メディア学会論文賞選考委員会委員長より「日本教育メディア学会論文」審議経過と結果が報告され、表彰が行われた。

受賞者名：高橋直治

論文名：「動く掛図論争」以前の映画教育を再考する：成城小学校訓導・関猛の実践に着目して

掲載論文誌：教育メディア研究 第25巻第1号(研究論文)

②2020年度年次大会の件

稲垣年次大会委員会委員長より、今年度の年次大会について、総会時点で93名の参加が報告された。

2020年度年次大会が、2020年10月17日～18日に岩手県立大学で開催されることが、会場校担当の市川会員より報告された。

③ICoME2020の件

研究委員会（国際担当）の岸委員長より、ICoME2020が2020年8月17日～19日に神戸の甲南大学で開催されることが報告された。

④理事の交代の件

小柳会長より、長谷川理事の退任、および後任として関戸会員に担当いただくことが理事会で決定されたことについて報告された。

⑤その他

- ・小柳会長より、教育学関連学連絡協議会の加盟が理事会で決定されたことについて報告された。
- ・寺嶋企画委員会委員長より、新しい機関紙「教師のセルフスタディ」についての告知がされた。
- ・黒上編集委員会委員長より、論文の募集についての告知がされた。
- ・豊田研究委員会（国内担当）委員より、2020年1月26日（日）に和歌山大学教育学部附属小学校で開催予定の研究会についての告知がされた。

論文投稿のご案内

編集委員会（委員長／黒上晴夫：関西大学）

〆切：随時

『教育メディア研究』では、一般論文を広く募集しています。〆切は特にありません。随時受け付け、その都度、査読プロセスを始めています。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

学会費納入のお願い、入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2019年度（2019年4月1日から2020年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行
種目：普通
店番：418
店名：四一八店（ヨンイチハチ店）
口座番号：0865850
名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガッカイ）

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座から ATM を使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくお願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員（10名）・・・中島禎志，末廣てるの，阿部真由美，古本温久，西尾典洋，有山裕美子，三村（葉山）敦美，炭村紀子，有山大地，須田幸次
 新入会員・学生会員（5名）・・・手塚和佳奈，中川恭輔，池田直仁，出田貴大，藤岡篤司
 退会者 ・正会員（2名）・・・鹿島千穂，帖佐和加子

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条の改正が承認されました。改正された規定では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。

会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、事務局（office@jaems.jp）までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

- （1）正会員，学生会員，団体会員ならびに購読会員が，会費を3年間滞納したとき，その年度末をもって除籍され，会員の資格を喪失する。
- （2）除籍された元会員が再入会するとき，滞納会費の納入を要する。

会員総数 370名・16団体

名誉会員：4名

正会員：326名

学生会員：40名

団体会員：6団体

購読会員：10団体

（令和2年1月20日 現在）

日本教育メディア学会 事務局

〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1

兵庫教育大学 永田智子 研究室内

E-mail : office@jaems.jp

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 渡辺雄貴 (東京理科大学)

副委員長 岩崎千晶 (関西大学)

委員 井ノ上憲司 (大阪大学)

遠海友紀 (東北学院大学)

竹中喜一 (愛媛大学)

多田泰紘 (関西大学)